

アムスルだより

No. 113 2012年 1月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●深海からの訪問者

ーフリソデウオの仲間ー

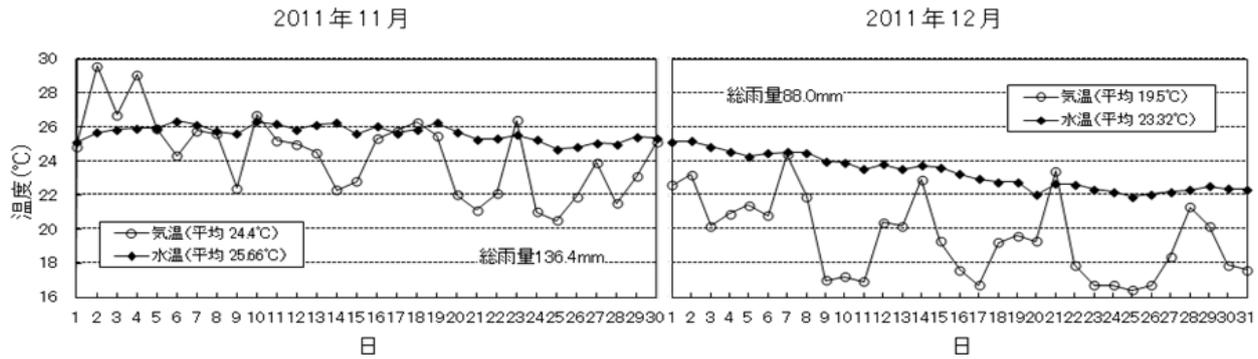
明けましておめでとうございます。正月からぐずついたすっきりしない天気が続いていましたが、1月8日はお日さまが顔を見せてくれました。今年の成人の日は1月9日でしたが、その前日のこの日には座間味村の成人式がとり行われました。スーツや着物を身に付けた新成人の人たちが、阿嘉離島振興総合センターに集まり、振り袖姿の女性もちらほら見受けられました。そこで、今回は振り袖にちなんだ魚の話をしましょう。

名前は、そのままのフリソデウオです。たぶんほとんどの人には耳慣れない名前だと思います。「リュウグウノツカイに

ちょっと似た魚」と言えば、もしかしたらイメージがわく人もいるかもしれませんが。リュウグウノツカイは、深海魚の1つで、タチウオのように細長い体つきをしていて、たてがみのような背びれのある体をくねらせながら泳ぎ、体長は5m以上に成長する大きな魚です。おとしには、とても短い時間でしたが生きた個体が水族館の水槽で公開されたので、話題になりました。というのも、リュウグウノツカイはとても珍しい魚で、泳ぐ姿を見られたこともまれなくらいなので、それが生きたまま捕まえられて、水槽に入れられたのは、全国で初めてのことだったからです。この魚の生態などは、いまだに謎に包まれています。リュウグウノツカイとフリソデウオの仲間は、同じアカマンボウ目に属していて、その中でもこの2つは特に関わりが深いグループだと考えられています。フリソデウオの仲間は、リュウグウノツカイほどは大きくなりませんが、それでも体長は1m以上になり、やはり深海にすむ珍しい種類で、詳しい生態などもわかっていません。フリソデウオの名前は、幼魚にある大きな腹びれが振袖のように見えることからつきました。

その珍しいフリソデウオの仲間が研究所に持ち込まれたのは、おとし(2010年)の3月のことでした。別の調査で島を訪ねていた勝越さんと石水さんが、

定点観測



「調査中に変わった魚を採集した」と言っ
て、持ってこられたのです。見てみると
本当に変わった魚で、頭から尾に向か
ってぐっと細くなる三角形で、背びれの
前の方と腹びれがひじょうに長く伸びて、
まるでイトヒキアジの幼魚のように、ひ
れというよりもかざりのようになっています
(イトヒキアジの場合、伸びている
のは背びれとしりびれですが)。採集し
たのは、マエノハマの水深 2 m 足らずの
浅い場所で、1 個体で漂っていたそうです。
持って来られた時には、もうすでに元氣
がなかったのも、せめて標本にしよう、
せっかくだから生きていた時の様子を記
録しようと話し合っ
て撮影したのが、冒
頭の写真です。実際には、ひれがもっと
すっ
と伸びていて美しかったのですが、
弱っているせいと撮影のために小さな容
器に入れたせいで、少しみすぼらしくな
ってしまいました。けれども、長いひれの
様子や体の色などから、同じ仲間のフ
リソデウオやテンガイハタではなく、ユ
キフリソデウオの幼魚だろうと思われま
した。

ユキフリソデウオもまた生態の詳しく
わかっていない種類です。いくつかの図
鑑を見てみると、日本での分布は「東京
湾口～大阪湾、小笠原諸島近海、秋田県
沖～山口県沖の日本海」と書かれており、
またその他の分布も「太平洋と大西洋の
暖海域」とあいまいな書き方で、沖縄で

の分布がはっきりしませんが、阿嘉島の
まわりでは、今回が初めてではなく、過
去にもその幼魚が見つかるようです。
ので、分布域と言ってよいのではない
かと思います。また、生まれてからの
くらいで幼魚になり成魚に成長するの
かわかりませんが、体長 10cm にも満
たない若い個体が見つかることを考
え、もしかしたら慶良間の近くで繁
殖しているのかもしれない。いつど
こで、どのくらいの成長段階の魚が
見つかったのかという資料を蓄積す
れば、謎に包まれたユキフリソデウ
オの生態に一步近づけるかもしれま
せん。みなさんも見つけた時には、
ぜひ研究所にもお知らせください。

● 阿嘉島の海より

1月8日に行われた今年の座間味村の成
人式では、13名がめでたく成人となり
ました。村内の小学校、中学校を卒業
し、高校進学や就職のために島を離
れた子ども達が立派な若者となって
島に戻ってきました。現在は大学生や
専門学校生、あるいは社会人として
沖縄本島や内地でがんばっている
であろう姿をみてとても頼もしく
感じました。祝賀会でのインタビュー
では、将来は島に戻ってきたいとい
う者が大半でした。いつの日か彼ら
が希望を持って帰ってこれるよう
に島の文化や自然を大事にしてい
きたいですね。

